

ぶっかけ橋というのは、橋桁はしげたをむこう岸まで並べて、橋桁はしげたに板を敷きならべてつなぐと
いったものでした。

ですから、水かさが少し増しただけでも押し流されてしまつて、使いものになりません
でした。

人が渡るのがせいぜいですから、若松へ野菜やその他の品物を売りに行くときなどは、
馬の背に米俵たわらさんびょう三俵をのせたり、モッコでかついだり、背負つたして、川越えをしていまし
た。

この舟場の近くに一軒の茶屋があり、茶屋のわきには、稲荷さまがまつられてありまし
た。この稲荷さまの境内に松が三本生えておりましたので、この地名を三本松さんほんまつというよう
になりました。

ぶっかけ橋が、常橋になりました。

小松の高木源四郎たかぎげんしろうはうたげいで、友人が、若松の小田橋の辺に住んでいました。この友